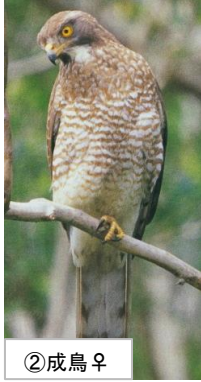




<p>種名</p>	<p>タカ目 タカ科 サシバ(<i>Butastur indicus</i>)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>①成鳥♂</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②成鳥♀</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>③幼鳥</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>④成鳥</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>⑤親鳥と雛</p> </div> </div> <p>(出典)①②③叶内拓哉ら(1998)山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥(山と溪谷社)、④⑤(株)応用生物資料</p>
<p>分布</p>	<p>九州以北から本州までは夏鳥、南西諸島では冬鳥。</p>
<p>形態</p>	<p>全長 47～51cm、翼開長 103～115cm、体重 375～433g。 ・雌雄ほぼ同色。成鳥雄は後頸からの上面と胸が茶褐色。喉は白く、黒褐色の線がある。腹は白く、茶褐色の横斑がある。成鳥雌は雄よりも淡色で、顔の青灰色味は少なく、白くて太い眉斑のある個体が多い。幼鳥は頭部からの上面が淡褐色。</p>
<p>生態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平地から山地の林、水田、草地などに生息する。 ・近くに湿地、谷地田、水田などを擁する林の樹上に営巣することが多い。 ・爬虫類や両生類を好み、昆虫類、鳥の巣立ち雛やネズミなども捕る。 ・秋の渡りは9月下旬から10月中旬までで、数十、数百羽にもなって飛ぶことがある。 ・繁殖期、求愛飛翔中に雌雄とも「ピッウイー」と鳴くことが多い。
<p>空港内の行動</p>	<p>・林地の鳥であり、通常空港に飛来することはない。</p>
<p>防除対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空港内に侵入してきた場合は、空砲、煙火による追い払いや実包による駆除を行う。 ・春秋の渡り期に高空で移動する個体への対策は難しい。
<p>リスク評価</p>	<p>10月から4月にかけて主に南西諸島の空港で衝突している。衝突頻度は低いが、航空機損傷事案もあり、注意を要する種と言える。</p>
<p>特記事項</p>	

種名	<p>チドリ目 チドリ科 シロチドリ (<i>Charadrius alexandrinus</i>)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>①成鳥♂(夏羽)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②成鳥♂(冬羽)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>③♀親(夏羽)と雛</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>④群れの飛翔</p> </div> </div> <p>(出典)①④叶内拓哉ら(1998)山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥(山と溪谷社)、②④(株)応用生物資料</p>
分布	留鳥または標鳥。中部地方以北では夏鳥、関東地方以西では冬鳥としての渡来が多い。
形態	<p>全長 17cm、翼開長 43cm、体重 36～67g。 ・雌雄ほぼ同色。成鳥夏羽雄は額と眉班は白色で前頭は黒く、頭頂と後頭は橙黄褐色。黒い過眼線がある。上面は一様に淡褐色。雌は頭頂、過眼線、上面はほぼ淡灰褐色。成鳥冬羽と幼鳥は全体に夏羽より淡色。</p>
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の海岸や砂浜、河口、干潟、砂洲などで見られる。繁殖期には河原の砂礫地や砂地で緩やかなコロニーをつくって営巣する。 ・春秋の移動期や冬は30～40羽から200～300羽の群れ、または他のチドリ類やハマシギなどと混群をつくって生活することが多い。海上の岩礁に群れることもある。 ・走り歩く、立ち止まるなどを繰り返しながら餌を探す。餌はゴカイ、トビムシなど干潟の小動物や陸生の昆虫類、クモ類などである。
空港内の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・空港では滑走路や誘導路上で採餌、休息することがある。 ・沿岸空港では潮汐に伴い干潟が満ちた時に空港に飛来する。
防除対策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より滑走路上への降り立ちを防ぐ必要がある。 ・空砲(シェルクラッカー)による追い払いは一時的ではあるが有効。 ・夜間の活動も盛んであるため、昼間帯に銃器による積極的な威嚇、追い払いを行うことも大事。 ・夜間の滑走路方面への飛来を防止するため、滑走路に近い位置で爆音器を稼働させることも考える。
リスク評価	衝突頻度が高いこと、複数羽との衝突や夜間の衝突もあることから、注意を要する種類である。
特記事項	

種名	<p>タカ目 タカ科 ノスリ (<i>Buteo buteo</i>)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <p>(出典)①②叶内拓哉ら(1998)山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥(山と溪谷社)、③④(株)応用生物資料</p>
分布	北海道から九州にかけて分布。本州中部以北では留鳥または冬鳥。中部以南では冬鳥。
形態	<p>全長 52～57cm、翼開長 120～140cm、体重 748～970g。 ・雌雄ほぼ同色。羽色や模様には個体変異がある。成鳥の上面は淡褐色から黒褐色、頸から胸は白っぽいものから淡褐色のものがある。腹と脇腹は褐色から茶褐色。幼鳥の上面はかなり淡色で、下面には縦斑がある。</p>
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・平地から山地の林、草原、農耕地、牧場、川原などに生息する。 ・主にネズミ類を捕食するほか、モグラ、カエル、ヘビ、昆虫などを食す。 ・空中の一点に留まりながら地上の餌を探し、見つけると急降下して捕獲する。 ・非繁殖期には農耕地など開けた一定の採餌場に出ることが多い。
空港内の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・空港に高径草本や低木が生育している場合、飛来することが多い。 ・フェンスや杭などの人工物に止まり探餌する様子も見られる。
防除対策	<ul style="list-style-type: none"> ・実包による駆除を取り混ぜて追い払いを行い、滑走路への飛来を防止する。
リスク評価	衝突頻度は低いが、航空機損傷事案もあり、注意を要する種と言える。
特記事項	

種名	<p>チドリ目 チドリ科 ムナグロ (<i>Pluvialis fulva</i>)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>①成鳥(夏羽)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②成鳥(冬羽)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>③成鳥(冬羽)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>④群れの飛翔</p> </div> </div> <p>(出典)①④叶内拓哉ら(1998)山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥(山と溪谷社)、②③(株)応用生物資料</p>
分布	九州以北では旅鳥で少数が越冬する。沖縄諸島など一部では冬鳥。
形態	<p>全長 24cm、翼開長 67cm、体重 86～123g。 ・雌雄同色。成鳥夏羽は額からの上面は黄褐色と黒色の混じった班で、部分的に白斑も入る。体下面は黒い。成鳥冬羽は体下面が淡灰褐色。足の色は灰色、灰黒色の個体が多い。幼鳥は成鳥冬羽によく似る。</p>
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・春秋の渡り期に、畑や水田、河原、埋め立て地などで見られる。干潟や河口などの水辺にも生息するが、乾燥した場所の方を好む。 ・群れで生活しているものが多いが、草地や畑で採餌する際は個別に動き回る。地上を走ったり歩いたりしながら、餌を見つけると急に立ち止まって捕える。 ・主に地中に棲む昆虫類の幼虫を捕食し、ミズや甲殻類なども餌とするが、草本の種子をついばむこともある。
空港内の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・空港の草地で採餌し、誘導路などで休息することが多い。 ・沿岸空港では潮汐に伴い干潟が満ちた時に空港に飛来する。
防除対策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より滑走路付近での活動を阻害する必要がある。 ・空砲(シェルクラッカー)による追い払い効果は一時的にはあるが、持続させるためには実包による駆除も取り入れる。 ・夜間の活動も盛んであるため、昼間帯に銃器による積極的な威嚇、駆除を行うことも大事。 ・夜間の滑走路方面への飛来を防止するため、滑走路に近い位置で爆音器を稼働させることも考える。
リスク評価	衝突頻度が比較的高いこと、複数羽との衝突や夜間の衝突もあることから、注意を要する種類である。
特記事項	